

ときめき人

Tokimeki bito



笑いあり涙あり、 舞台に咲く 色とりどりの花

迫町・大綱南

萌 翔さん

もえ しょう (本名 須藤 翔)
1992年生まれ

Profile

萌乃会二代目会主。大衆演劇の役者・舞踊家として、5歳から70代までのメンバー10人をまとめ上げる。全国各地を渡り歩き、台湾でも公演。曲の世界観の表現や、扇子を巧みに回す「要返し」に定評がある。

【問い合わせ】萌乃会事務局
☎080(6607)8405



立ち役(男性役)姿の萌翔さん(左)と、メンバー最年少の萌春輝くん

「萌翔」公式
ホームページ



「決め所で客席から飛んでくる大きな声援——。これがあるからやめられない」と、萌乃会二代目会主の萌翔さんはほほ笑む。

初代会主で日本舞踊の師範だった祖母・萌須寿さんの下、幼い頃から踊りに親しんできた。小学5年生の時に観劇した大衆演劇の舞台に衝撃を受け、本格的に踊りの稽古に打ち込むように。子役として数々の舞台を経験し、中学生になると、祖母の勧めで女形にも挑戦して芸の幅を広げてきた。

公演で日本各地の入浴施設や温泉宿などの劇場を渡り歩く一方、2012年からは毎年欠かさず水の里ホール・Abebisou(登米祝祭劇場)を会場にチャリティーショーを開催。収益の一部を市社会福祉協議会に寄付している。「初めは被災地支援が

目的でしたが、今では地元への恩返しの意味が大きい」と笑顔で語る。8月24日に開催した活動15周年記念チャリティーショーは満員に。当日を振り返り、「多くの支えのおかげで迎えられた15周年。当日は時間があっという間に過ぎる感覚で、最後は素晴らしい声援の中で幕を閉じ、『やって良かった』という思いでいっぱいでした」と感謝を述べる。

コロナ禍を経て大衆演劇の披露の場は大きく減ったが、その中でも萌翔さんはさらなる高みを目指して歩みを止めない。「今後は後進の育成にも力を注ぎながら、いずれは大衆演劇の大御所たちのようにテレビでも活躍したい」と夢を語る。曲ごとに表情をがらりと変え、舞台に咲く色とりどりの花の輝きから、今後も目が離せない。

編集後記

▼私には、特集などで取材を進めていくと、その人たちのことを好きになるという習性があります。楽しんで農作業する沢田管理組合の皆さんも同じで、少しでも活動内容や雰囲気伝わった記事にしたいと思って編集しました。市内各地でたくさんさんの「楽しい」が増えますように。(高橋)

▼この編集後記を書いてるのは9月初旬。SNSで「日曜日をあと17回迎えたら新年」という投稿を目にし、思わず心臓が跳ねました。時が経つのはあっという間ですね。「そろそろ秋か」なんて気楽に考えている場合ではないと、背筋が伸びる思いでした。(添田)

▼栗原市で開催された広報研修会に参加してきました。講師は本市の高橋。近隣市町の広報担当の皆さんと情報交換しながら勉強しましたが、研修資料には添田と私の写真がたくさん登場し、恥ずかしい思いもあった研修会でした。企画していただいた皆さんありがとうございました。(森田)

登米市公式ホームページ

<https://www.city.tome.miyagi.jp/>

登米市メール配信サービス

(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>

登米市公式 LINE

(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>

